世界を舞台に活躍

海外建設コンサルタントのリアル

CHARACTERISTICS

海外で活躍する建設コンサルタント

ゼロからその国を創る

海外にはまだまだインフラ整備を必要としている国がたくさんあります。街全体、国全体の都市計画を検討したり、鉄道がなかった都市にメトロを巡らせたり。自分の携わったプロジェクトが人々の暮らしを劇的に変える、国がどんどん発展していくのを目の当たりにすることができます。

ビッグプロジェクトが目白押し

その国の玄関口となる国際空港や国際港、全長20kmを超える環状道路に全長10kmを超える鉄道橋と日本国内で経験できないビビッグプロジェクトが目白押しです。

計画から設計、維持・運営まで

コンサルタントが官公庁やゼネコンと異なるところは、インフラ整備の上流から下流まであらゆる段階に携われるところです。現地を調査して自分たちで道路を計画・設計し、工事中は設計通り進んでいるかを現場で監理し、完成後は運営にも携わり、さらに末永く使えるよう点検や補修も行います。一つのインフラに一気通貫して携わることができます。

*入札支援：工事発注における、入札図書準備や評価、契約手続き等の支援。

PROJECT INTRODUCTION

日本の技術で大渋滞を解消

入社1か月で国家的プロジェクトに！当時は無我夢中でした。

S.Hさん（30代）
専門：道路

入社後、約１か月間の新入社員研修を経て道路事業部に配属されてすぐに、スリランカへの出張を打診され、二つ返事で出発することに。でも、数日間の海外旅行しか経験がなかったので、１か月の出張に、服装から持ち物、食事など、先輩に一から十まで教えてもらい、出張先の業務や生活にドキドキしながら準備しました。

担当したのは「スリランカ国ケラニ河新橋準備調査」。国際空港や港を結ぶ６車線の大規模橋梁を新設する事業の、交通需要や経済効果などを調査するもので、私は大学院時代の研究を生かし交差点の交通量解析を行いました。ほかにも、建設予定地から移転する住民への説明会の運営も担当したのですが、対象住民は100人以上。初めての海外出張と事業規模の大きさに無我夢中でした。

開通したケラニ河新橋。日本発祥のエクストラ・ドーズド橋**を採用。土木学会田中賞をはじめ、多くの賞を受賞しています。

この橋は8年後に無事完成し、開通式には当時のスリランカ国大統領をはじめ、スリランカと日本両国の政府関係者が多数参加しました。この橋の開通がスリランカにとっていかに重要なものかを改めて実感するとともに、こんな国家的なプロジェクトに入社早々携われたことを誇りに思っています。

**エクストラドーズド橋：橋げたをケーブルで吊るす斜張橋の一種。ケーブルを支える主塔の高さを低く抑えることで都市部や空港周辺など高さ制限のある場所でも建設しやすく耐風性にも優れる。日本発祥の技術。

QUESTIONS & ANSWERS

海外建設コンサルタントのリアル

Q やりがいを感じた場面は何ですか？

S.Hさん（50代）
専門：鉄道

【計画から設計まで担当！】

ミャンマーの鉄道事業で、都市地域計画からスタートして、実現可能性を調査し、設計まで一気通貫で携わりました。現地の方々のためになっているということにやりがいを感じました。

Q 大変だなと思うことはありますか？

E.Kさん（30代）
専門：道路

【積極的な対話で信頼構築】

はじめのうちは、言語や文化の違い、多様な関係者との調整に難しさを感じましたが、積極的なコミュニケーションを通じた信頼関係の構築により克服しました。

N.Tさん（40代）
専門：鉄道

【チームワークを大切に！】

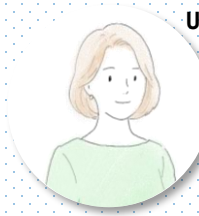
当たり前ですが、仕事は一人ではできないことを痛感しています。そのため、インドネシアの現地スタッフを含め、周囲とのコミュニケーションを大事にしながら仕事をしています。

Q 大学での専攻は仕事に関連してますか？

T.Kさん（30代）
専門：港湾

【大学の専門が現場に直結】

大学の頃から港湾に関する勉強をしており、その際に学んだ港湾に関する管理体制の仕組みなどの知識が、現在のケニアでの業務に役立っています。



U.Mさん（20代）
専門：空港

【専攻外でも実務で成長！】

大学では土木を専攻していましたが、現在は電気系の業務も担当しています。初めは知識が足りずに大変でしたが、先輩に教わりながら頑張っています。知識よりも実際の経験が重要だと実感しています。

Q 海外出張に不安はありましたか？

I.Kさん（20代）
専門：上下水道

【海外経験少なめでもOK】

入社前は2週間のホームステイ経験しかなく不安でしたが、入社後にインドやラオス等への出張を経験したことで、海外での生活や英語でのコミュニケーションにも少しずつ慣れてきました。

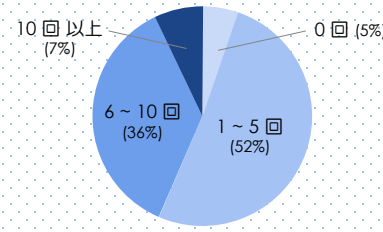
Q 海外出張にはどのくらい行きますか？

T.Kさん（20代）
担当：総務

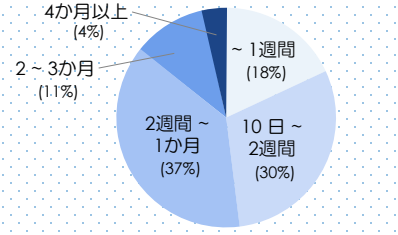
【社員9割以上が海外へ！】

当社の場合、およそ95%の社員が年に1回以上海外出張に行っているようです。1回の出張期間は、約半数の人が2週間以内である一方、4か月以上の比較的長期の出張や現地駐在をしている人もいるようです。

出張回数 （1年あたり）



出張期間 （1回あたり）



Q 海外でのエピソードを教えてください

S.Tさん（30代）
専門：
新規ビジネス

【現地の屋台で大失敗…】

インド出張中に現地関係者に勧められた屋台のサトウキビジュースを飲んで、お腹を壊し…。味はおいしかったけれど、衛生状況と自分の体調を考えればよかったと反省しました。

S.Tさん（50代）
専門：
エネルギー

【大雨冠水！ビーサン通勤】

東南アジア出張の際、雨季の豪雨が凄まじくインフラも整っていないため至る所で冠水しました。革靴はずぶ濡れになってしまったので、現地のオフィスへはビーチサンダルで通いました。

Q 海外のコンサルタントは忙しいですか？

【メリハリと互いの協力でプライベートな時間を確保】

海外出張前や、最終報告書を作成するときなどはどうしても忙しくなります。一方で、業務が落ち着いているときは早めに帰宅することも。また、プライベートな予定があるときや業務量が多くなりすぎたら、チームメンバー間で互いに協力しながらうまく調整しています。

【フレックス等で時差に対応 長期休暇も】

日本とは時差のある海外のプロジェクトでは、現地とのオンライン会議が日本の早朝や夜になってしまうこともあります。そんな時は、フレックスタイムで就業時間を調整したり、リモートワークを活用して時間を有効活用したりしています。プロジェクトが完了したら次のプロジェクトまでの期間は長期の休みを取って、旅行や帰省をしたり、家族と過ごす時間をとったり、公私のバランスをとっています。

Q. 家族ができたら海外の仕事は難しいかな

A. 子供たちに誇れる仕事！制度の活用で家庭と仕事は両立できます！

N.Tさん
（30代）
専門：農業

私は現在、5歳と2歳の子育て中。妻も同業なので、どちらかが海外出張中なんてことも日常茶飯事です。最初は海外での仕事と家庭の両立に不安がありましたが、日本にいる間はテレワークやフレックス制度を活用し、子供たちと過ごす時間を多く持つようにしています。第二子誕生時は6ヶ月間の育休を取得し、家族だけの時間を過ごせました。周囲の理解と協力を得ながら、その時のベストな働き方を選択することで、仕事と家庭の豊かな両立を実現しています。

株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル

OC GLOBAL

発行 2026.10.8

株式会社 オリエンタル
コンサルタンツグローバル

〒163-1409
東京都新宿区西新宿3丁目20-2
東京オペラシティタワー9F
TEL：03-6311-7570（代表）
E-mail：ocg-saiyo@ocglobal.jp

関連資料

OC Global
ホームページ

動画で知る
海外出張

マダム、これが俺
たちのメトロだ！